

「災害対策トップフォーラム」開催結果

人と防災未来センターでは、最新の研究成果による知見等をもとに、今後発生する災害に対し各自治体のトップに求められるリーダーシップなどについて議論することを通じ、自治体の危機管理のあり方を考える「災害対策トップフォーラム」を下記のとおり開催しました。

記

1 日 時

平成16年7月1日(木) 10:25～17:00

2 場 所

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
「防災未来館」5階プレゼンテーションルーム

3 参加者

市町長及び助役 19名

	市 長	町 長	市助役	町助役	政策監	合 計
兵庫県内	1	2	4	5	0	12
兵庫県外	0	3	3	0	1	7
計	1	5	7	5	1	19

兵庫県外：宮城県、長野県、岐阜県、滋賀県、徳島県

4 内 容

ケーススタディー

【内 容】「巨大災害に直面したとき、首長はどのような行動をし、どのような判断を行うべきか」等について、いくつかの事例を紹介し、それぞれの事例に含まれるポイントについて、参加者相互の意見交換を基に理解を深める。



ケーススタディーの様子

【コメンター】 室崎益輝 人と防災未来センター上級研究員
(独立行政法人消防研究所理事長)
齋藤富雄 兵庫県副知事
山中茂樹 朝日新聞社大阪本社編集委員

講演「迫りくる巨大災害と行政・首長に求められる役割」

【講 師】河田恵昭 人と防災未来センター長

(京都大学防災研究所巨大災害研究センター長)

【内 容】阪神・淡路大震災において行政に求められたリーダーシップとは何か、また近い将来発生が懸念されている東海・東南海・南海地震において行政対応上どのような問題が予想されるかなど、具体的事例とともに論じる。



河田センター長講演の様子

5 参加者の評価

当フォーラムは、一昨年度、昨年度に引き続き3回目となるものですが、参加者アンケートでは「非常に得るところがあった」との意見が多く、全体としては高い評価をいただけたものと考えています。

ケーススタディー

- ・災害時の対応について、冷静に考えればその善し悪しの大半はわかるが、ケーススタディーを通して一種の疑似体験を済ませておくことにより、もし実際に災害等に直面した場合に、より適切に対応できるのではないかと考えた。
- ・ケーススタディーのシナリオが当日配布され、即断即決のトレーニングであったことは良かった。また、コメンテーターの適切な「課題提言」「コメント」さらにはコメンテーター間の立場の違いによる議論などが参考になった。

講演「迫りくる巨大災害と行政・首長に求められる役割」

- ・様々な事例を折り込みながら具体的にお話いただけたのは良かった。
- ・課題のとらえ方、対応の仕方など、具体的なテーマで説明され、よく理解できた。もう少し時間があれば、質疑も十分できたかなと思った。
- ・プレート型地震と直下型地震の被害の様子や影響に関する違いは多いに参考になった。また、自衛隊に協力依頼する際の「ものの言い方のコツ」もなるほどと思わせるものがあった。

(参考) 参加市町長・助役 (全国地方公共団体コード順)

気仙沼市助役 (宮城県)

箕輪町長 (長野県)

高山市助役、川辺町長、七宗町長 (以上、岐阜県)

大津市助役 (滋賀県)

尼崎市長、洲本市助役、加古川市助役、赤穂市助役、西脇市助役、

猪名川町助役、神崎町助役、御津町助役、上郡町長、一宮町長、

柏原町助役、山南町助役 (以上、兵庫県)

徳島県政策監 (徳島県)